

事故防止へ「緊急5日間作戦」

街頭立哨などで安全運転呼び掛け

酒田

酒田市宮海の国道7号十字路交差点で交通死亡事故が発生したことを受け、酒田警察署と管内各交通安全団体は9日から13日までの5日間、事故防止に向けた「緊急5日間作戦」を展開。作戦の一環として12日、事故現場近くで街頭立哨などを繰り広げ、広く安全運転を呼び掛けた。

同市宮海の国道7号十字路交差点で今年8日正午すぎ、看護師女性(66)運転の軽乗用車と、会社員男性

(38)運転の普通乗用車が出合い頭に衝突。軽乗用車の後部座席に同乗していた無職女性(71)が翌9日朝に死亡が確認されたほか、計3人が重軽傷を負った。看護師女性(66)は福祉施設に勤務、亡くなった女性ら施設利用者を送迎中だった。同署によると、看護師女性の信号見落としが原因という。



同署は重大交通事故の連鎖を食い止めようと、各交通安全団体と連携して9日13日に同作戦を展開。11日には安全運転を訴える増川高広署長名の書簡を管内の各福祉施設に送付した。12日は各交通安全団体と同署、県警高速道路路交通警察隊鶴岡分駐隊から計約70人が参加。同署の渋谷貴地域交通官が事故概要を説明した上で、「重大事故が繰り返されないよう、年末に向け頑張っていきたい。協力を」とあいさつした。

参加者は降雨の中、「交通死亡事故発生!」「交通安全に努めてください」などと書かれたプラカードを手に同国道下り車線側歩道に立ち並んだほか、現場付近の事業所を訪問して交通安全を呼び掛ける参加者たち12日

安全を呼び掛けた。事故現場となった交差点では、署員と分駐隊員が「シグナル

ストップ作戦」を行い、信号待ち車両の運転者にチラシを配布した。